

## 治療初期から緩和ケアを

研究会例会 ふくやま病院院長が講演

明石市や加古川市などの医師や看護師らでつくる「東播磨緩和ケア研究会」の例会が3日、市立勤労福祉会館（明石市相生町2）であった。2017年に緩和ケア病棟を開設したふくやま病院（硯町2）の譜久山仁院長が講演し、医療従事者ら約120人が耳を傾けた。

同会は03年に設立され、年1回例会を開く。

譜久山院長は、患者の心身の痛みを和らげる緩和ケアを「質の高い生活を送れるように、治療の初期段階から切れ目なく実施するべき」と強調。抗がん剤治療をする病院と連携する必要

があるとし、「経過を共有して、患者がより良く生きるため何がベストかを考えることが大切」と述べた。

愛生会山科病院（京都市山科区）の荒金英樹・消化



緩和ケアについて講演するふくやま病院の譜久山仁院長。市立勤労福祉会館

器外科部長も登壇。さまざまな職種が連携し、京料理の伝統技法を盛り込んだ介護食や高齢者向けの和菓子

作りに取り組む「京滋摂食・嚥下を考える会」の活動を紹介した。（田中宏樹）